

2017(平成 29 年) ～渡良瀬川の濁水とダム補給～

草木ダムの水は、渡良瀬川流域で農業用水、都市用水及び水力発電に使用されています。また、渡良瀬川の生態系など河川環境を保つために、年間を通じて安定した流れを保つ必要があります。(流水の正常な機能の維持)

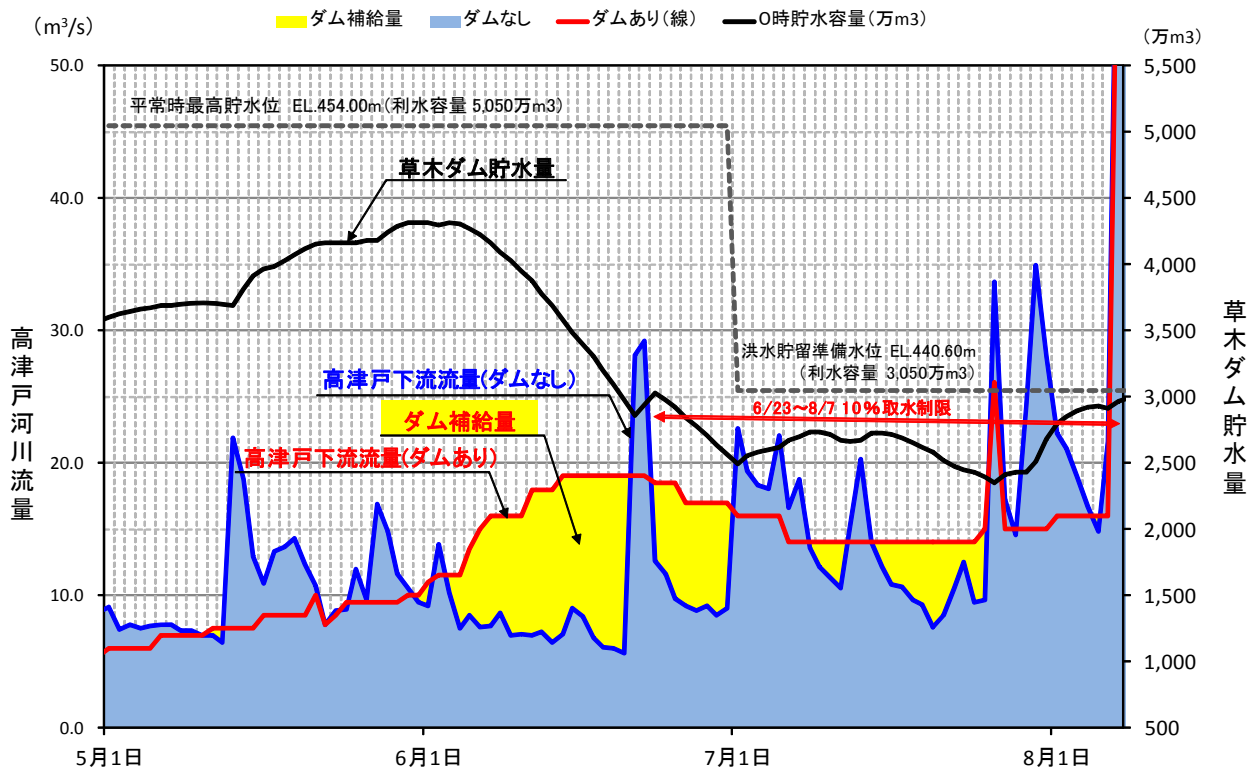
草木ダムでは、下流の各利水者の取水状況に応じて、ダムから必要な水を補給(放流)しています。

下の図は、平成29年5月から8月中旬までの草木ダムから約20km下流の高津戸地点の河川流量を表したグラフです。渡良瀬川に必要な水の量(高津戸下流流量)は、**赤い線(ダムあり河川流量)**で表しています。それに対して、草木ダムがなかった場合の渡良瀬川に流れる自然流量が**青い線(ダムなし河川流量)**です。

都市用水や田植えなどで渡良瀬川流域の水の必要量が増えると川の自然流量では足りなくなります。その場合は、ダムに貯留しておいた水を補給して必要量を満たします。

草木ダムでは、本格的に利水補給を開始した平成29年5月1日から8月6日までの間、日最大で約116万m³(6月20日)、全体で約2,490万m³(東京ドームの容積約20杯分)の利水補給を行い、流況の改善を図りました。(黄色の塗り潰し部分)

草木ダム貯水量及び高津戸確保地点流量



【最高水位時】6月3日

【最低水位時】7月26日

【取水制限解除時】8月7日



貯水位 449.44m(0時)
貯水率 85.5%(非洪水期)



貯水位 434.79m(0時)
貯水率 77.0%(洪水期)
46.5%(非洪水期換算)



貯水位 439.95m(0時)
貯水率 97.2%(洪水期)
58.7%(非洪水期換算)